

「家庭基礎」学習指導案

広島県立庄原実業高等学校  
教諭 岩広 春菜

本学習指導案のポイント（中村 誉子 指導主事）

- 食分野の学びのまとめとして世界の食問題を取り上げ、安全、健康、環境などの視点をもって考察させ、ペアで共有し調理実習に活用できる提案をさせることで、生徒一人一人が自分事として具体的に食問題について検討することができる学習となっていた。
- デジタル機器を有効に活用しており、ペアワークと個人活動がテンポ良く行われる授業展開となっていた。

1 実施日：令和6年11月14日（木）5限：13時25分～14時15分（50分）

2 学年・学級：1学年・生活科学科（17名）

3 単元名：食生活をつくる

4 単元について

(1) 単元観

この単元は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）「家庭基礎」の「B 衣食住の生活の自立と設計」の(1)「食生活と健康」を踏まえて設定したものである。本単元では、栄養の特徴や健康、環境に配慮した食生活について理解し、持続可能な食生活を主体的に営むために必要な技能を身に付け問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、自己や家族の食事を工夫し課題を解決する力を身に付けることで、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践できる力を付けることをねらいとしている。

(2) 生徒観

食生活分野について1学年生活科学科17名に事前調査を行った。「中学校までの食生活分野の学習について理解していますか」という質問に対して、「よく理解している」「理解している」と回答した生徒は17名で100%であった。「栄養バランスのとれた食事ができていますか」という質問に対して、「できている」と答えた生徒は2名（12%）、「できていない」と答えた生徒は3名（18%）、「分からない」と答えた生徒は12名（70%）であった。「分からない」と回答した理由としては、「なんとなく食べているから」「考えていなかったから」というものであった。

以上のことから、中学校までの学習で食生活について理解しているものの、自己の食生活でその知識を活用するまでに至っている生徒は少ないことが分かった。これは、現在の食生活は家族等から与えてもらうものであり、自分で食生活を営む状況ではないため、学習内容を自分事として捉えることができていないからであると考えられる。よって、学んだことを実生活に生かすための具体的な方法を授業の中で考察し実践する場面を設けることが必要である。

(3) 指導観

授業の導入では、自己の食生活を振り返らせることで学習内容と自己の食生活を関連付けるようにする。さらに授業で学んだことを自己の食生活にどのように生かしていくのかを考察させる場面を設けることで、生徒がよりよい食生活について考え、工夫することができるようにする。

5 単元の目標

- (1) ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し持続可能な食生活を主体的に営むために自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。[知識及び技能]
- (2) 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について持続可能な社会を目指す観点から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて、論理的に表現するなどして、自己や家族の食事を工夫し課題を解決する力を身に付ける。[思考力、判断力、表現力等]
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築と持続可能な社会に向けて、食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した食生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。[学びに向かう力、人間性等]

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解している。 持続可能な食生活を主体的に営むために自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成調理計画、健康や環境に配慮した食生活について持続可能な社会を目指す観点から問題を見出して課題を設定し解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する力を身に付けている。	様々な人々と協働しよりよい社会の構築と持続可能な社会に向けて食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した食生活について、課題の解決に主体的に取り組み振り返って改善したりして、自分や家庭地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

7 指導と評価の計画（全11時間）

次	学習内容（時数）	評価			評価規準	評価方法
		知	思	主		
1	食生活の課題について考える		◎		自己の食生活を振り返り、自己の食生活について問題を見出し、課題を設定している。	*ワークシート
2	食事と栄養・食品	◎			自分や家族が健康に過ごすために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質について科学的に理解している。	*ワークシート *考査

3	食品の選択と安全	○		食品の保存方法や食中毒の危険性、予防方法について理解している。	◎行動観察 *ワークシート *考査
4	生涯の健康を見通した食事計画	◎		各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、健康に良い栄養バランスの良い食事とはどのようなものか理解している。	*ワークシート *考査
5	調理の基礎	○	○	食生活の自立に必要な調理の知識と技能を身に付けている。	*ワークシート *考査
6	食生活の文化と知恵		○	日本と世界の食文化に関心を持ち、文化や風土等が食生活へ与える影響について考察している。	◎行動観察 *ワークシート *考査
7	これからの食生活【本時】		◎	持続可能な食生活に係る情報を、安全、環境への配慮、健康などの視点で判断し、これからの食生活について考え、表現している。	*ワークシート *考査
8	調理実習（4時間）	◎	○	食品の調理上の性質や栄養的特質に理解を深め日常生活における実践への意欲を高めることができている。【調理実習】	◎行動観察

※◎は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点、\*は、記録に残す評価

## 8 本時の展開

### (1) 本時の目標

持続可能な食生活に係る情報を、安全、環境、健康などの視点で判断し、これからの食生活について考え、表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】

### (2) 観点別評価規準

持続可能な食生活に関わる情報を安全・環境・健康などの視点で判断し、これからの食生活について考え、表現している。  
【思考・判断・表現】

### (3) 準備物

(生徒) 教科書、生活ハンドブック、PC (教員) PC、スライド、大型モニター、教科書、生活ハンドブック、ワークシート

### (4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て	評価場面 (評価方法) 【評価の観点】
導入 10分	1 動画「目標2   飢餓をゼロに   小学生からのSDGs」を見た感想を共有する。 2 動画の内容を復習し、本時のテーマである「持続可能」の意味を考える。 3 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">持続可能な食生活をおくるにはどうすれば良いのだろう。</div>	・事前に classroom で動画を共有し、感想を記入させておいたものをスライドで提示する。	
展開 35分	4 食料生産と食料問題について知り、問題解決のためにできることを考える。 【ペアワーク・発表】 5 食をめぐる問題とその対策について知り、問題解決のためにできることを考える。 【ペアワーク・発表】 6 食品ロスを減らすためにできることを考え、ふきだしくんで共有する。 7 調理実習で実践できる「環境にやさしい調理実習」を考え、ふきだしくんで共有する。 8 明日から自分が取り組むことを考える。【発表】 9 調理実習でできることを考える。	◆ワークシートの記入箇所を大型モニターで提示しながら現代の食料問題等について説明する。 ◆個人で思考した後にペアで意見を共有することで、視野を広げさせるとともに、考えが浮かばない生徒も思考できるよう補助する。	持続可能な食生活に係る情報を、安全、環境への配慮、健康などの視点で判断し、これからの食生活について考え、表現している。(ワークシート) 【思・判・表】
終結 5分	10 本時のまとめをする。 学習課題に対する自分なりの答えを記入する。 2~3人、全体共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">持続可能な食生活をおくるためには、一人一人が地産地消を意識した食生活を心がけ、フェアトレードマークなどのマークが記載された食品を選択するなど工夫する。また、食の安全に関する知識を身に付けておくことよい。小さなことでも、できることを実践することが、地球規模の問題解決につながる。</div>	◆記入する際は、本時で学習した内容を踏まえ、安全、環境、健康の視点で記入するよう指導する。	

### (5) 判断基準

評価	思考・判断・表現
A (十分満足できる)	持続可能な食生活に関わる情報を安全・環境・健康などの視点で判断し、これからの食生活について自分事として考え、具体的に表現している。
B (おおむね満足)	持続可能な食生活に関わる情報を安全・環境・健康などの視点で判断し、これからの食生活について考え、表現している。
C (努力を要する)	持続可能な食生活に関わる情報を判断し、これからの食生活について表現していない。